

再評価結果（平成17年度事業中止箇所）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課

担当課長名：西村 泰弘

事業名	一般道道 <small>たてまちふくしま</small> 館町福島線	事業	地方道	事業	国土交通省
		区分		主体	北海道開発局
起終点	自： <small>ほっかいどうひやまくんあつさぶちょうあざしろおが</small> 北海道檜山郡厚沢部町字城丘 至： <small>ほっかいどうまつまえぐんふくしまちょうあざせんげん</small> 北海道松前郡福島町字千軒	延長	39.1km		
事業概要	館町福島線は、厚沢部町と福島町を結ぶ延長約5.2kmの一般道道であり、約3.9kmの区間が開発道路に指定されている。当事業は、交通不能区間の解消を図ることにより、林業・鉱業などの地域資源の開発を支援するほか、広域観光ルート形成の形成支援を目的とした事業である。				
S48年度事業化	S 年度都市計画決定	S49年度用地着手	S49年度工事着手		
全体事業費	約219億円	事業進捗率	46%	供用済延長	9.4km
計画交通量	900台/日				
費用対効果分析結果	B / C (事業全体) 0.3 (残事業) 0.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 104/284億円 事業費：93/269億円 維持管理費：11/14億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 84/84億円 走行時間短縮便益：75/75億円 走行経費減少便益：8/8億円 交通事故減少便益：1/1億円	基準年 平成16年	
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=0.3(交通量+10%) B/C=0.3(交通量-10%) 事業費変動：B/C=0.3(事業費+10%) B/C=0.3(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=0.2(事業期間+20%) B/C=0.4(事業期間-20%)				
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 国土・地域のネットワークの構築（現道等における交通不能区間を解消する） 物流効率化の支援（農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる） 他5項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見	沿線自治体からは、路線の整備要望が出されているが、「昨今の厳しい情勢等を勘案すると事業継続が困難な状況も理解できる。今後は高速ネットワークの整備と社会情勢の変化等に応じ地域の道路として将来的な整備に希望を持つ」との意見が出されている。また、北海道からは「当路線の事業執行上の課題及び現在の事業進捗状況等を総合的に勘案すると事業の中止もやむを得ない」旨の意見が出されている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	開発道路指定当時、道南圏で計画決定された高規格道路は、北海道縦貫自動車道だけであったが、現在では函館・江差自動車道、松前半島道路などが計画されている。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	開発道路区間39.1kmのうち9.4kmを北海道へ引継いでいる。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	地形条件や周辺環境などの現地条件を勘案すると、残りの区間29.7kmの完成までには平成20年代後半以降になると想定される。				
施設の構造や工法の変更等	事業区間を道道木古内江差線から国道228号交点まで見直しを図ることで、走行速度や冬期の交通機能は確保されるものの、道央方面等とのアクセス経路が確保されず、交通需要の低下により便益の増加が見込めない。また、1.5車線の整備や既存林道の活用等を実施しても走行速度が低下するため便益の増加が望めず、有効なネットワーク形成とはならない。				
対応方針	事業中止 今後、本路線周辺の高速ネットワークの形成など函館都市圏との連携強化に関する検討を進める。				
対応方針決定の理由	事業の投資効果、事業進捗の見込み、代替案立案の可能性及び関係地方公共団体等の意見を総合的に判断した。				
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。